アンケート結果及び統計情報等の考察

資料2

基本目標	統計情報から見える主な状況	アンケート結果及びワークショップから見える主な状況		主だった課題
すべての子どもと家庭への支援		・中学2年生（373人）のうち、自分はヤングケアラーに当てはまると回答した生徒の割合は0.5%（２人）となっており、一定数のヤングケアラーが存在している。	➡	・子ども・若者ケアラーへの支援の必要性
		・自身が「子ども・若者ケアラー」に当てはまると回答したのは、高校生世代で1.8%（１２人）、若者世代で1.4%（１１人）となっており、一定数の子ども・若者ケアラーが存在している。		
		・現在の暮らしの状況について、「苦しい」「大変苦しい」と回答した保護者は、等価世帯収入が低いほど割合が高くなっている。	➡	・貧困対策の必要性 ・家庭の経済状況によらず十分な学習機会が得られるよう子どもへの学習支援の必要性 ・地域のスポーツクラブや文化クラブ、学校の部活動といった体験活動における、体験格差（学校外の体験活動の質や量における格差）解消の必要性
		・学校の授業以外で「塾で勉強する」と回答した児童・生徒は等価世帯収入が高いほど割合が高くなっており、家庭の経済状況により学習機会に差が生じている。		
		・将来の進学希望について、「大学まで」と回答した生徒は等価世帯収入が低いほど割合が低くなっており、家庭の経済状況により将来の進学希望に差が生じている。		
		・地域のスポーツクラブや文化クラブ、学校の部活動に参加していない理由について、費用面、家の事情と回答した児童・生徒は等価世帯収入が低いほど割合が高く、家庭の経済状況により体験活動に差が生じている。		
	・児童虐待新規通告件数は、増加傾向（令和4年度は744件）	・子育てに関して、不安や負担を感じることについて、「子育てのストレス等から、子どもに手をあげたり、叱りすぎたり、世話をしてなかったりしてしまう」と回答した方は、就学前児童の保護者で9.2%、小学１～３年生の保護者で9.9%となっており、約１０人に１人が虐待を行う恐れがある結果となっている。	➡	・虐待等により困難を抱えている子ども・家庭への支援の必要性
子育てと仕事の両立	・宝塚市の出生数は、平成24年以降減少		➡	・少子化対策の必要性
	・保育士数は増加傾向にあるが、入所者百人当たり保育士数は、令和3年度まで減少傾向で、それ以降は横ばいで推移		➡	・保育士確保の必要性
		・宝塚市の子育て環境について、否定的評価（「そう思わない」と回答）をした方の割合が肯定的評価（「そう思う」と回答）をした方の割合を上回った項目で、割合差が大きかったものとして「保育サービスが充実している」（就学前児童の保護者は差26.9ポイント、小学１～３年生の保護者は差28.7ポイント）が挙げられ、否定的評価をしている保護者が多い。		・保育サービス充実の必要性
	・放課後児童クラブの入所児童数は、概ね微増で推移。待機児童数は年度によって増減（約120～300人）があるが、依然として待機児童が発生している。	・小学校低学年で放課後の時間を過ごさせたい場所の上位が「自宅」「地域児童育成会」「学習塾や習い事」となっており、就学前では、「地域児童育成会」の割合が5年前の調査と比べて大きく増加しており、ニーズが高まっている。	➡	・待機児童対策のため放課後児童クラブの整備の必要性
		・子育て支援において、さらなる充実が必要と思われるものとして就学前の保護者では56.5%（全体の２位）の方が「子育てと仕事の両立を支える保育サービス（保育所、認定こども園）や放課後児童対策（放課後児童クラブなど）の充実」と回答しており、多くの保護者がさらなる充実が必要と思っている。		
教育環境の整備	・不登校児童・生徒数は、小学校、中学校ともに増加傾向		➡	・不登校児童・生徒への支援の必要性
		・子どもの権利について、すべての子どもに子どもの権利があることを「あまり知らなかった」「知らなかった」と回答した児童は43.0%、生徒は52.6%と約半数が知らないと回答しており、子どもの権利についての理解が十分に進んでいない。	➡	・子どもの権利に関してのさらなる周知の必要性
	・幼稚園の園児数は減少傾向		➡	・教育環境整備の必要性
	・小学校の児童数は減少傾向			
安全・安心の環境づくり		・宝塚市の子育て環境について、否定的評価（「そう思わない」と回答）をした方の割合が肯定的評価（「そう思う」と回答）をした方の割合を上回った項目で、割合差が大きかったものとして、「公共施設や道路が子育てに配慮されている」（就学前児童の保護者は差45.3ポイント、小学１～３年生の保護者は差46.3ポイント）が挙げられ、否定的評価をしている保護者が多い。	➡	・子どもの成長にも寄与できるような環境整備の必要性
家庭や地域の子育て力・教育力の向上		・宝塚市の子育て環境について、否定的評価（「そう思わない」と回答）をした方の割合が肯定的評価（「そう思う」と回答）をした方の割合を上回った項目で、割合差が大きかったものとして、「子育てに関する情報が豊富」（就学前児童の保護者は差21.1ポイント、小学１～３年生の保護者は差22.2ポイント）が挙げられ、否定的評価をしている保護者が多い。	➡	・子育て支援に関する情報発信のさらなる充実の必要性
子どもの社会参加の促進		・子ども・若者ワークショップにおいて、「楽しく生活するってどんなこと？」に対して、遊びに関する意見が最も多く、また、「経験したい遊びや学びってどんなこと？」に対して、日常ではできない体験という意見が最も多く出ている。	➡	・子どもの遊び場の整備・充実や子どもたちのやってみたい遊びや体験、学習機会づくりの必要性
		・就学前児童の保護者、小学１～３年生の保護者のうち、宝塚市は子育てがしやすいと答えた方と子育てしにくいと答えた方の両方で、子育て支援において、さらなる充実が必要と思われるものとして「安心して利用できる子どもの遊び場の整備・充実」と答えており（両方１位）、多くの保護者が安心して利用できる子どもの遊び場を求めている。		
		・（自分や友人の家以外で）平日の夜や休日を過ごすことができる場所や（自分や友人の家以外で）夕ご飯を無料か安く食べることができる場所、勉強を無料で見てくれる場所を利用したことがある、あれば利用したいと思うと回答した児童・生徒はどれも40%～50%となっており、約半数の児童・生徒が上記のような居場所を利用したことがある、あれば利用したいと思っている。	➡	・居場所の整備・充実の必要性
		・宝塚市政に意見を述べたり、参画する機会があるかどうかについて、「どちらかといえば感じていない」「感じていない」と回答した方の割合は、高校生世代が78.8%、若者世代で81.5%となっており、多くの高校生・若者世代が宝塚市政へ参画する機会がないと感じている。	➡	・高校生・若者世代を対象とした宝塚市政に意見を述べたり、参画する機会の必要性
	・現在、勤務・就業していない人のうち、就職・起業を希望していない人が７割を超えている。	・広義のひきこもりの該当者数は、高校生世代、若者世代合わせて25人（有効回答者数に占める割合1.8%）となっており、一定数のひきこもりが存在している。	➡	・ひきこもりに対する支援の必要性 ・若者への就業支援策の必要性